

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月6日

【評価実施概要】

事業所番号	第4690100450号		
法人名	医療法人 鹿児島愛心会		
事業所名	グループホーム 東谷山		
所在地	〒891-0113 鹿児島市 東谷山二丁目 49-10 (電話) 099-260-8200		
評価機関名	NPO法人自立支援センター鹿児島福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月4日	評価確定日	平成21年6月27日

【情報提供票より】(平成21年 5月21日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17人
職員数	20 人	常勤3人	非常勤17人 常勤換算17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り		
	3階建ての 2 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費5000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (5月 21日現在)

利用者人数	15 名	男性 1 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿児島徳州会病院、たかさお歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筐貫バイパスに面するわかりやすい施設で、利用しやすいように工夫され、明るく清潔感のあるホームである。玄関や広いリビングには季節の花が生けられ、ソファが置かれ、利用者はゆったりと日々を過ごしている。管理者・職員は相互に啓発しあい、利用者とも仲よく支えあいながら、笑顔で日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員とも話し合いを行ないながら、改善課題についての取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに自己評価を実施している。昨年の外部評価の結果についても全職員で話し合いを行い、改善への取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域交流会と名付けて定期的に行っている。地域の方々や利用者の家族も参加し、意見を交わし、サービスの向上に活かすようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者は近くの方が多くて、家族の面会が多い。面会時には家族に声かけを行い、意見や要望を聞いたりしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、公園の清掃活動にも参加している。地域のボランティアの訪問や中・高校生の体験学習の受け入れを行なうなどして地域との交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らし続けることを支えるサービスとして、事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を共有し、朝の申し送り時に唱和している。玄関・エレベーター・リビング等の目に付くところに掲示しており、理念を基に日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していて、公園の清掃活動等に参加して地域との交流を図っている。歌や踊りのボランティアの訪問、中・高校生の体験実習の受け入れも行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	話し合いを行ないながら管理者がユニット毎の意見をまとめた。外部評価の意義を理解し、改善点に対しては見直しへの取り組みもなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員にも参加してもらったり、催事を兼ねて実施し、家族に参加してもらいながら、ホームの状況報告や意見交換を行ない、サービス向上に活かすようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の保護課や後見人制度を通じて市社協との連携はとれている。いろいろな情報交換を行ないながら、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へのホーム便りを作成し、健康状態や生活の様子等を報告している。また、金銭管理を行なっているので出納帳のチェックもしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の面会時にお茶を出したりしながら声かけを行い、話を聞いて運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係を大切にしているため、異動は最小限にしている。新しい職員には利用者の馴染みの関係ができるまで担当の職員と一緒にケアを行なう体制ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部の研修会に参加している。研修会の参加は出勤扱いである。資格取得を希望する職員には、管理者も職員も協力的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームの勉強会に参加している。地域のグループホームとの交流、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの入居希望者が多く自宅訪問を行なっている。事前に家族と利用者に来所いただき、職員や他の利用者に馴染めるよう家族と相談しながら取り組みを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションや朝の掃除時などの会話の中から気持ちを汲み取り、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お互いに支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声かけを行い、アセスメントや会話の中で表情・行動等を見ながら、希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントでは、本人に関わる周りの方たちや家族・本人の思いや意見を聞いたり、職員の意見を反映させて介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が生じた場合や必要時には、本人、家族、職員と話し合いを行い、検討・見直しが行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や墓参り等、利用者・家族の要望や状況に応じて、多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に診てもらっている。歯科も訪問診療してもらっている。本人・家族と連絡を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方については、文書化しており入居時に話をしている。本人や家族・職員・主治医で話し合いを行っていて、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけは、誇りやプライバシーに配慮しながら行なうようにしている。職員間でも注意し合いながら声かけをしている。記録や個人情報についての取り扱いにも配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、利用者の希望にそって支援できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭き・片付けも一緒に行なっている。同じテーブルで楽しく食事もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞きながら、入浴支援を行なっている。お湯の温度を好みにあわせたり、入浴したくない日は次の日にする等、本人の希望にあわせた入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜を植えたり・らっきょう漬作り・散歩・洗濯物たたみ等、利用者一人ひとりの役割の支援や、福祉バスを利用してそうめん流しに出かけたり、梅を観に行くなど、楽しみごとの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園に出かけたり、散歩やドライブなど、日常的に外出の支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを実施している。建物の構造上死角があり、また交通量が多いため、入口にチャイムを設置している。状況に応じて家族に説明を行ないながら取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。そのうちの1回は地域の消防団員の協力をもらいながら訓練を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行なっている。献立は栄養バランスよく配慮され工夫されている。糖尿病等の治療食の方は、医師・栄養士と相談しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングでソファや椅子があり、利用者はゆったりと日々過ごしている。玄関には季節の花や飾り付けがなされており、利用者が居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・椅子・ラジオ・本・花・観葉植物・家族の写真・孫の写真等があり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。